

# 文化

## 憲法学者

### ととして

### 考える

海員・全港湾・公務員労組の「5・7有事法制に反対し北朝鮮問題を考えるシンポジウム」で講演

「魚雷だ！」と誰かが叫ぶと同時に船内に一斉にとよめきが起こった。この時、輸送指揮官の大佐があわててしまつたのです。…兵隊がウワッと船倉から上がつてきて、海に飛び込む態勢になつた。と、見ると、私たちの船の進行方向右側を航行していたタンカーの真中に、船の長さと同じくらいの水柱が上がっている。五分としないうちに船首が直角に上がつて、甲板にあつたものがザーッと海に落ちていくのが肉眼でも見えました」。筆者が33歳の時に出版した『戦争とたかろ』。一憲法学者のルン



早稲田大学法学部教授

## 水島 朝穂

みずしま・あさほ 1953年東京生まれ。広島大助教授などを経て現職。著書『世界の「有事法制」を診る』（法律文化社）ほか多数。NHKラジオ第一放送「新聞を読んで」レギュラー（8月31日午前5時30分スタート）。  
<http://www.asaho.com/>

# 平和憲法の具体化で海の平和を実現したい

「島戦場体験」（日本評論社）のなかで、憲法学者・久田栄正氏（1989年死去）が語つた言葉である。この本は、久田氏のルン戦場体験を聞き取り、関係者の証言や資料で裏つけたものだ（現在絶版だが、図書館で読める）。執筆過程で入手した『日本郵船戦時船史』を読んで、彼が「ミ

一九船団」でルンンに向かっていたことがわかった。彼が目撃したのは油槽船（タンカー）千早丸の沈没。この時、8名の船員が死亡している。太平洋戦争で命を落とした商船船員は6万2000人。船員の死亡率は海軍軍人のそれよりもはるかに高い。日本は四方を海に囲まれて

## 「有事」3法案が成立したけれど

「国民」には含まれない。災害やテロから市民・住民を守る

以下（の懲役）で強制する仕組みはできあがった。今後、「国民保護法制」の整備が進むだろう。注意しなければいけないことは、「国民保護」だから国民のためになるというの誤解である。地方自治体が災害や犯罪などから守るべき対象は「市民」であり、法的には「住民」である。「住民」には外国人も含まれるが、「国民」には含まれない。災害やテロから市民・住民を守る

るといふのなら、「住民保護」が適切だろう。あえて「国民保護」という形で「国家」の鑑を強調するのは、政府が軍事的対応措置をとる際に、自治体や住民をいかにしてそこに組み込むかという点に隠れた狙いがあるからだ。そもそも米国が他国に先制攻撃を加えて、それに対する当該国の反撃に備えるシステムというのは、純粋に防衛的なものとは言えない。これからの「有事」のありようは、米国による特定国への先制攻撃によって始まる可能性が一番高い。そうした事態に備える仕組みの骨格ができあがった以上、これからはその細部の整備と、それを実際に作動させるための準備が始まる。「医療土木建築工事または輸送を業とする者」に対する業務従事命令（罰則付き）も何らかの形で復活してくるだろう。いま、4年の時限立法（さらに4年延長可）という形でイラク特措法が制定されようとしている。海外派兵と国内動員態勢は車の両輪である。アラブ諸国などからの反発が強まれば、海外に出ていく日本人船員にとっては危険が増す。国内では、米軍が行う先制攻撃に協力させられる仕組みが整備されていく。

## ショートストーリー

静香がサリー・スミスさんから電話を受けたのはシーフェアラース・センターでの奉仕活動を終え、帰宅したばかりの夜九時過ぎのことだった。サリーさんはセンターの事務局長としてT港に立ち寄る外国人船員のため日夜奉仕を厭わぬ人である。

二月のT市の寒さは厳しく、雪の舞う真っ白に凍りついた道路を港に向かって三十分ほど走る。埠頭に停泊している大きなチップ船を見上げたとき、静香はかなり緊張した。長い舷梯をこわごわ上り、やっと甲板に足を降ろしたときはほっと安堵した。

細く狭い階段をサリーさんの後について上つていく。船長室にはイギリス人の船長がいて、にこやかにもてなしてくれた。紅茶を

と、あの黒人の話題に移つた。彼等は南アフリカの内陸出身の密航者であった。出港して三日目にデッキで発見されたが、日本を始め、どこの国の港でも国籍不明の二人は自由に上陸させてもらえない。本人たちはアメリカに行きたくてめくらめっぽうに乗ってしまったが、密航した船は一路日本の北の港T港に向け、航行していたのだ。

帰りの車中でサリーさんは、「二人は密航という罪

した丸い顔には人懐っこい笑顔が広がっており、サリーさんと静香は思わず顔を見合わせた。明らかに彼等は船員ではない。しかも入口は鎖で締められ、出入りできないようにしてあった。

と、あの黒人の話題に移つた。彼等は南アフリカの内陸出身の密航者であった。出港して三日目にデッキで発見されたが、日本を始め、どこの国の港でも国籍不明の二人は自由に上陸させてもらえない。本人たちはアメリカに行きたくてめくらめっぽうに乗ってしまったが、密航した船は一路日本の北の港T港に向け、航行していたのだ。

と、あの黒人の話題に移つた。彼等は南アフリカの内陸出身の密航者であった。出港して三日目にデッキで発見されたが、日本を始め、どこの国の港でも国籍不明の二人は自由に上陸させてもらえない。本人たちはアメリカに行きたくてめくらめっぽうに乗ってしまったが、密航した船は一路日本の北の港T港に向け、航行していたのだ。

と、あの黒人の話題に移つた。彼等は南アフリカの内陸出身の密航者であった。出港して三日目にデッキで発見されたが、日本を始め、どこの国の港でも国籍不明の二人は自由に上陸させてもらえない。本人たちはアメリカに行きたくてめくらめっぽうに乗ってしまったが、密航した船は一路日本の北の港T港に向け、航行していたのだ。



で逮捕されたのだから、日本に居る間はきつと警察に拘禁されるでしょう。暑いところから来て、この寒さに耐えられるのかしら。身一つで船に入りこんだんどうにね」と、気掛かりな様子であった。翌週の火曜日、いつものようにセンターに行くときサリーさんが笑顔で迎えてくれた。静香の顔を見るなり、ああ、そうそうと思ひ出して、次のような話をしてくれた。

あの日訪船をしたあと、一晩いろいろ考えたあけくに、サリーさんはセンターにある男物の冬服の中古衣類を二入分持つて警察に向かい。アフリカの二人が逮捕されたということは、船が日本に停泊中は最寄りの警察に拘束されているのだろうと思つたからだ。ところが、密航者は上陸できないので、船内で拘束されていると教えられた。警察官はサリーさんの行動に「こうした発想はどこから出てくるのだろうか」と非常に感動したそう、たまたまその後すぐ道で出会つたときも、向こうから親しげに挨拶してきたというのであった。

## 訪 船

柏木節子文  
田島よししげ画